

2022年度

臨床心理学コース説明資料

臨床心理学コース 概要

臨床心理学コースの特色

- ・現在は「心の時代」
 - …不登校, いじめ, 引きこもり, うつなど
 - …公認心理師法により, 国家資格も誕生した



臨床心理学コースでは以下の2つの活動を主軸に, 社会のニーズにこたえられる専門家・指導者の養成を行っている。

実践活動

個人の心理的問題を, 生物・心理・社会モデルでとらえ, 統合的に援助できる専門活動の教育

研究活動

臨床心理学で取り扱う問題の理解, 予防, 効果的な援助の開発などの研究活動の教育

臨床心理学コースの内容

臨床心理システム論

- ・・・臨床心理活動を社会的専門活動として発展させるための研究
- ・・・システム論的アプローチによる研究と実践 など

発達臨床心理学

- ・・・発達心理学と臨床心理学の知見の発展的融合と援助実践への活用
- ・・・生涯発達という視点による研究や実際の援助 など

臨床心理カリキュラム論

- ・・・教育訓練をより効果的に行うカリキュラムの開発
- ・・・臨床心理学研究法の開発 など

実践活動（教育学研究科附属心理教育相談室）



面接室



プレイルーム



カンファレンス

教員紹介



能智 正博（のうち まさひろ）

教授：臨床心理カリキュラム論
臨床心理学コース コース主任
心理教育相談室 室長

専門：

- ・ 質的研究の方法論技法論の整理と普及
- ・ 語り（ナラティブ）の観点からの臨床実践
- ・ 障害や慢性疾患を持つ方々のライフストーリーの研究
- ・ コミュニティのなかでの支援とケア

高橋 美保（たかはし みほ）

教授：臨床心理システム論

専門：

- ・ コミュニティや社会の視点からの心理的問題の理解と援助方法の開発
- ・ 就労、復職、失業など働くことにまつわるメンタルヘルス
- ・ 個人のライフキャリアの構築を支援する研究・実践



教員紹介



滝沢 龍（たきざわ りゅう）

准教授：臨床心理カリキュラム論

専門：

- ・健康や病気のプロセスの生物・心理・社会的アプローチによる理解
- ・一次予防の観点によるリスク因子の探索及びレジリエンスの増強
- ・社会環境因子の影響の科学的実証

野中舞子（のなか まいこ）

専任講師：発達臨床心理学

専門：

- ・子供とその家族の支援の実践と研究
- ・強迫性や衝動性という特性に対するアプローチ
- ・実態の理解，内的な体験理解，家族支援，認知行動療法によるアプローチの発展



各研究室の紹介

各研究室の活動紹介

- 各教員の研究室について、1～2ページで紹介します。
 1. 能智研究室
 2. 高橋研究室
 3. 滝沢研究室
 4. 野中研究室
- 個別の研究室訪問や問い合わせは5月末までの受付としています。
それ以降、入試までの期間受け付けていません。
- 資料を閲覧し、質問事項がある人は研究科HP記載のURL（コースHPのFAQ）より問い合わせをお願いします。

能智研究室紹介 (1)

・能智正博

履歴： 1962年愛媛県生まれ、東大文学部心理学科卒、米国Syracuse大学カウンセリング&ヒューマン・サービス・コースPh.D.

関心： 質的研究法、障害者心理と発達、脳損傷者の支援、リハビリテーション、ナラティブ・カウンセリング

主著：『質的研究法』（東京大学出版会，2011）

『ディスコースの心理学』（共編著，ミネルヴァ書房，2015）

『ソーシャル・コンストラクショニズムと対人支援の心理学』（共編著，新曜社，2021）

・ゼミの構成と研究領域（2022年度）

修士課程 2人、博士課程 9人（休学者を含む）

関心領域は様々だが、「マイノリティ」に属するとされている人の体験や、その支援に関するテーマが多く、質的研究の方法を用いて研究を進めている点が共通。

能智研究室紹介 (2)

- ゼミ活動

毎週火曜午後：研究指導ゼミ、質的方法勉強会、臨床勉強会、個別カンファレンス

土曜（不定期、自由参加）：Field & Qualitative Research 研究会、ディスコース研究会等

- 近年の修士論文

「病気や障害のある同胞と死別した『きょうだい』のライフストーリーの検討—グリーフと自己のあり方に着目して—」

「摂食障害の子を持つ母親の主観的体験—子との距離感をめぐる軌跡の検討—」

「心理職の職業的発達に関する質的検討—中堅期以降における専門性の認識と専門職アイデンティティをふまえて—」

- 近年の博士論文

「知的障がい者のきょうだいのライフコース選択：きょうだいが直面する困難と支援のあり方」

高橋研究室からのメッセージ



具体的な形は様々ですが、多くの人が“思うように生きられない生きづらさ”を経験すると思います。

ー しかし、思うように生きることができる人生だけが、自分にとって本当に幸せなのでしょうか。

また、その生きづらさは個人の要因だけでなく、社会や環境との接点で起こるものもあるため、理不尽に思うこともあるでしょう。

ー しかし、その社会を作っているのも私たちです。

私たちは社会との接点なくして生きられません。そのため、個人と社会の関係性をどう理解し、どう支援するかが重要となります。

私は個々人が主体性を持って自分らしい“ライフキャリア”を築けるように、そして、様々な弱さや強みを持つ個々人が共生できる“コミュニティ”を作ることができれば、と考えています。ささやかではありますが、そのために必要な実践や研究を行ってきました。

ただ、学生の皆さんには私と同じ研究をしてほしいとは思っているわけではありません。個々の学生さんが、自分がライフワークとしたいと思うような研究テーマを見つけ、研究と実践の面白さと難しさに存分に触れて、その上で自分のライフキャリアについて考えていただきたいと思います。皆さんの貴重な人生のひと時、同じコミュニティで一緒にできることがあれば幸いです。

臨床心理学コース 高橋 美保

詳細は、webサイト[東京大学 大学院教育学研究科 臨床心理学コース \(u-tokyo.ac.jp\)](https://u-tokyo.ac.jp)をご覧ください。

- 臨床実践（心理療法のアプローチ、心理支援の視点、心理支援のフィールド）は[こちら](#)
- 研究概要（研究領域、研究スタイル、研究内容）については[こちら](#)
- 研究実績については[こちら](#)、**研究室の概要**については[こちら](#)

東京大学大学院教育学研究科
臨床心理学コース 高橋研究室

東京大学大学院 滝沢龍研究室

Ryu Takizawa M.D., PhD. The University of Tokyo
Stress, Bio-marker & Life-course Health Lab.

2022年5月

研究科説明会資料

- ・「こころの健康を科学する」が、大きな研究室テーマ
- ・生活場面（家庭・学校・職場）でストレスがあったとしても、こころの健康を「育む（生涯発達）・見える化する（指標）・守る（予防）」を目標として、社会に役立つ研究を促進
- ・生物・心理・社会モデル（医学・心理学・教育学の研究法）を用いた重層的なアプローチでWell-beingの向上を目指す
- ・臨床研究と臨床実践のいずれにおいても、「専門性の追求」と、それを支える「広がりのある基礎」を重視



①【主体性】

- ・興味・関心による主体性を尊重（各自の研究テーマに沿ったサポート体制）
- ・国内外の学会活動や論文投稿を応援し、早期に業績・経験を積めるように支援（学会参加費や投稿費やデジタル技術・計測機器等の研究費援助や指導体制）

②【開放性】

- ・活発な学生間交流と、グループ毎の勉強会などの自主的な研究活動の奨励
- ・研究室・研究科・大学間の垣根を越えた経験・機会の促進（他の研究機関・研究科・企業等との共同研究や研究会・勉強会への参加）

③【実践性】

- ・先輩の研究プロジェクトに参加など、エビデンスレベルの高い研究を積み重ねていく手法を実践的に学ぶ場の提供（質的研究と量的研究を適材適所で活用）
- ・臨床実践は認知行動理論を基礎とし、さらに応用実践へ発展。臨床現場や生活場面で役立つ支援技能の獲得（医師と心理師の両資格をもつ指導教員が指導）

野中研究室のご紹介

自己紹介

- 東京大学大学院教育学研究科博士課程修了後、スクールカウンセラーとして勤務、心理教育相談室特任助教を経て現職
- 修士課程3名、博士課程6名（2022年度）
- 業績は[こちら](#)から ○研究室のHPは[こちら](#)から

研究紹介

子どもと家族への支援を軸に研究活動を行っています。

1. チック・トゥレット症や強迫症の病態理解と支援の発展に向けた研究
2. 子どもや若者を対象とした認知行動療法の実践及びその開発・効果検証
3. 教育現場での心理職養成カリキュラムの検討

少しでも多くの子どもたちが肩の力を抜いて、
それぞれが発達段階に応じて出会う課題に向き合える、そんな支援について考えています。

最後に

- 生物・心理・社会の観点から，問題を理解し，社会のニーズにこたえられる専門職と研究者を養成しています。

